

所長	G長	課僚

# 会 議 報 告 書

【報告者 産業部林業振興課 渡辺悠登】

起案	令和2年11月12日(木)	部長	次長	課長	補佐	G長	課僚	起案
報告書								
議題	<p>令和2年度サイト座談会</p> <p>日 時：令和2年11月11日(水) 15:45～16:30 場 所：天竜林業会館2階会議室 参加者：22名(別紙名簿のとおり) 浜松市：袴田雄三課長、藤江俊允G長、渡辺</p>							
1	<p><b>概要</b></p> <p>モニタリング実施要領(2の(1)の①)に基づきサイト座談会を開催。</p>							
2	<p><b>内容(主な意見)</b></p> <p>(1) FSC関連</p> <p>佐久間) FSC取得から数年が経過し、<u>FSCに関する事務もスムーズになった</u>。FSC認証林面積の増加にますます注力したい。同時に、市や県が主導ではなく、<u>森林組合が主体となり、林業やFSCをPRする事業を展開することが必要</u>。</p> <p>佐久間) スギの価格の低さが気掛かり。価格が上昇すれば森林所有者も管理に意欲的になる。<u>もっとセールス活動に力を入れてほしい</u>。</p> <p>県森連) 現在、<u>スギの大径材が売れにくい</u>。根玉の価格が出ても2・3番の値段が伸びない。60年生辺りの中目材(末口20～28cm)やヒノキ通し柱(6m)は売れている。</p> <p>龍山) FSC面積の拡大のため森林所有者に同意書をもらうが、その際、FSCを知らない人が多くいる。PRが必要。</p> <p>春野) 紙製品はFSCの認知度が向上している。一方、木材はFSCの認知度が低いため、<u>もっと一般市民にPRすべき</u>。</p> <p>県森連) <u>県内他地域(静岡等)に比べると認知度は高い</u>と感じる。今後は、大規模物件での木材使用だけでなく、多様な木製小物・展示物を作ることも有意義だろう。<u>林業関係者以外の一般人の目にも、FSC認証材が触れやすい環境創りを工夫すべき</u>。</p> <p>市) 3密対策事業ではFSC認証材プレートの配布も行っており、市でもFSCのPR活動には邁進している。</p> <p>国) 労働災害の発生について、主作業と副作業は区分しているか(副作業事故の発生が多い場合、度数率・強度率が変化する可能性あり)。</p> <p>市) 主作業における事故だけを集計している。</p> <p>(2) 災害対策</p> <p>水窪) 本年度7月に発生した龍山地区の土砂災害の復旧作業が停滞している。被災地域住民は生活道路の迂回が必要で、安全性が確保されていない林道の通行を余儀なくされている。<u>FSC認証に尽力することに加え、災害</u></p>							

復旧も柔軟かつ迅速に対応願いたい。

龍山) 国道 152 号線の復旧も喫緊の課題。北遠地区の主要道の 1 つであり、林業の発展にも必要不可欠な道路。

(3) その他

引佐) 来年度予算はどのような展望か。

市) 10 月中に予算案を提出済み。「浜松市森林・林業未来構想会議」で地元関係者の意見を聞き予算案に反映した。12 月末に内示を受ける予定。コロナ禍で税収も減少傾向にあり、例年より厳しい結果が予想される。

引佐) 新型コロナウイルスの影響で今年度は職員間の交流や意見交換をする機会が激減している。コロナが沈静化した際には、担当者レベルでよいので情報共有できる機会を積極的に設けていきたい。

### 3 意見

コロナウイルスの流行に加え、7月の土砂災害、更には獣害と林業に携わる者にとっては厳しい現状が続いている。長期的に見れば、こうした問題への解決策を1つ1つ丁寧に模索していくことが、FSC 認証材の振興に直結していくのではないか。

## 令和2年度サイト座談会の様子

日時：令和2年11月11日（水）15:45～16:30

場所：天竜林業会館2階会議室

